

J A 全農ちば 営農情報集

2026

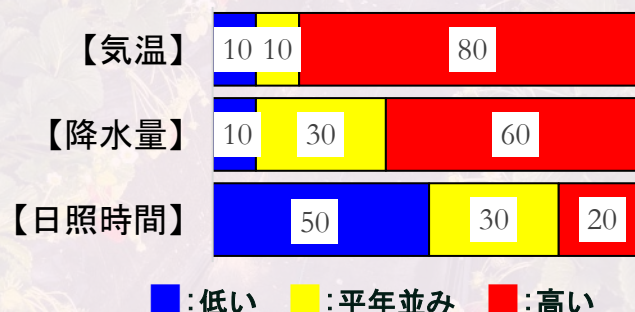
4

今月の情報

- I. 水稲 田植え前後の管理について
- II. 園芸野菜 病害虫防除情報
- III. 果樹（ナシ） 病害虫防除情報

今月の気象（気象庁4/2発表 1か月予報より）

平年と比較し、気温の高い日が続きます。降水量が多く、日照時間が少なくなる見込みです。病害と害虫の発生に十分注意し、定期的な巡回と防除を実施しましょう。



注意とお願い

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

I. 水稲 田植え前後の管理について

JA全農ちば 営農支援課

1. はじめに

本年も稲作が始まり、代かきや育苗管理作業で忙しくなります。突発的な高温・低温に注意し、苗のヤケ等の防止に努めましょう。**被覆を新しく張り替えたハウス**は晴天時に高温となるため、特に注意を払いましょう。

2. 今後の育苗管理について

ハウス内温度は、日中 30℃以上・夜間 10℃以下にならないよう、「換気」と「保温」に努めましょう。

ハウス内の温度が上昇してからでの換気では遅いため、高温が予想される日は早朝から換気を心がけましょう。

3. 田植え時の初期害虫防除について

初期害虫の種類と発生量を考慮し、箱施薬剤を選択しましょう。

いもち病常発田や空散未実施地域は、殺虫殺菌混合の箱施薬剤も検討しましょう。

使用のポイント

- 1箱あたりの散布量 (50g) ※を必ず守る
- 散布前に苗についた露を払い落とす
- 散布ムラに注意し、均一に散布する
- 散布後は手で苗を払い、薬剤を下に落とすの4点をしっかりと実施しましょう。

※高密度播種に対応した処理量が登録されている剤もあります。

使用にあたっては 最新の登録内容をご確認ください。

<登録例>

高密度には種する場合は

1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約 5L) 1箱あたり 50~100g)



イネドロオイムシ成虫・幼虫

表. おすすめの箱施薬剤

対象病害虫		おすすめ商品
イネドロオイムシ	発生多い	フェルテラ箱粒剤・アドマイヤーCR箱粒剤など
	発生少ない	ワンリード箱粒剤08・パダン粒剤4など
初期害虫+いもち病の常発田		ブーンパディート箱粒剤・デジタルコラトップアクタラ箱粒剤など
初期害虫+いもち病・紋枯病の常発田		ブーンレパード箱粒剤 エバーゴルフオルテ箱粒剤など

4. スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策

5月上旬に気温・水温が上がり、移植後間もない時期は特に被害が出やすくなります。薬剤防除だけに頼らず、耕種的防除と組み合わせて対応することが重要です。

(1) 耕種的防除

- ア. 田植え前にジャンボタニシの捕殺に努め、水田の取水口に 5mm 以下の金網やネット等を設置して侵入を防ぐ。
- イ. ピンク色の卵は水中に払い落とす。
- ウ. 水田の畦畔および用排水路の雑草を刈り取る。
- エ. 深水部分では被害が多くなりやすいので、丁寧に代かきを行い、均平化を図る。
- オ. 稲4～5葉期までは4cm程度の浅水で管理して水田内での動きを抑制する。

(2) 防除薬剤

薬 剤 名	使用時期	使 用 量	効 果
パダン粒剤4	稲(稲育苗) 播種前又は田植当日	60～100g/箱	食害防止
	本田初期 (収穫30日前まで)	4kg/10a	
スクミノン(注)	収穫60日前まで	1～4kg/10a	殺 貝 (中貝～成貝)
ジャンボたにしくん(注)	収穫60日前まで	1～2kg/10a	殺 貝 (中貝～成貝)
スクミンベイト3	発生時	2～8kg/10a	殺 貝

- ・殺貝剤でも貝が大きくなると防除効果は低下します。
 - ・殺貝剤と食害防止剤は摂食行動を鈍らせるため、スクミノン等の薬剤と効果が反発します。使用する場合は1週間以上の期間を空けてください。
- 注意) 「スクミノン」と「ジャンボたにしくん」は同成分(メタアルデヒド)を含むため総使用回数に注意しましょう。



ジャンボタニシの成貝(左)と卵塊(右)

5. 雑草防除について

除草剤は登録上の「使用時期」を確認してから散布するようにしましょう。

特に初期剤の田植え前の使用にあたっては、使用時期【代かき後～移植7日前まで】を厳守してください。

(1) 水稻除草剤使用上の注意点

- ア. 水田にどのような雑草が生えるか確認し、除草剤を選択する。
- イ. 田面がデコボコしていると効果にムラがでるため、代かきを丁寧に行い田面の均平化を図る。
- ウ. 散布後3～4日間は水を切らさないようにし、除草剤の効果を安定させる。
- エ. 散布後7日間は落水やかけ流しをしない。
- オ. 各薬剤の散布量を守り、薬剤を正しく使用する。
- カ. 薬害の発生を助長するため、軟弱徒長苗や極端な浅植えは避ける。

(2) 薬剤の処理方法

- ア. 比較的雑草の発生が少ない水田 ⇒ **一発処理**による雑草防除
 初中期一発剤を使って1回で防除する方法。「代かき～田植えまで」の日数を4日以内とし、田植え後10日以内に散布します。薬剤の使用時期を確認し、適用できるノビエの葉齢までに散布しましょう。
- イ. 多年生雑草や雑草の発生量が多い水田 ⇒ **体系処理**による雑草防除
 初期剤と初中期一発剤（または中期剤）による2段階で防除する方法。雑草量が多い、または「代かき～田植えまで」の日数が空いてしまう場合などに行います。多年生雑草などは栽培期間中長期にわたって発生が続くので、防除効果の高い体系処理が必要になります。

初期剤

スタメン・先陣・ピラクロンフロアブル・サキドリEWなど

★8年産 イチ推しおススメ初期除草剤「スタメン」剤について★

「ノビエ」に特化!!長期残効を有する初期剤!

新たな使い方の提案

後ビエや中干し後に出るヒレタゴボウ対策には、あえて一発剤後にスタメン剤を使用することが有効! ノビエ・ヒレタゴボウに対しては中期剤処理より低コスト! 効果は雑草の発生抑制が主体。有効成分：イプフェンカルバゾン

一発剤 + 「スタメン」(移植後30日処理)によりヒレタゴボウ対策効果



左：無処理区でヒレタゴボウが多発（約50cm）

右：一発剤+スタメン処理、ヒレタゴボウの発生なし

無処理枠内抜き取り（移植後約90日）

摘要表（抜粋）

農薬の名称	作物名称	使用時期	使用量	使用方法
スタメン1キロ粒剤	移植水稻	移植時	1kg/10a	田植同時散布機で施用
	移植水稻	移植直後～ルビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	1kg/10a	湛水散布又は無人航空機による散布
スタメンフロアブル	移植水稻	植代後～移植前7日又は移植当日～ルビエ1葉期 但し、移植後30日まで	500ml/10a	原液湛水散布又は無人航空機による滴下

初中期一発剤

セイテン・バッチリLX・ノックアウト楽粒 など

★8年産 イチ押しおススメ一発除草剤「**セイテン**」剤について★

藻類を対策（抑制メイン）できる唯一無二の一発除草剤。

藻類の発生が多い圃場は、体系防除推奨。初期剤「先陣」剤との体系処理で藻類発生を長期間抑えます。

有効成分：オキサジクロメホン、ジメタメトリン、フェンキノトリオン、ベンスルフロンメチル

摘要表（抜粋）

農薬の名称	作物名称	使用時期	使用量	使用方法
セイテン1キロ粒剤	移植水稻	移植時	1kg/10a	田植同時散布機で施用
	移植水稻	移植直後～ルビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	1kg/10a	湛水散布又は無人航空機による散布
セイテンジャンボ	移植水稻	移植直後～ルビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	小包装（パック）10個（250g）/10a	水田に小包装（パック）のまま投げ入れる。



畦畔から左：慣行区・右：セイテン処理区



無処理枠内抜き取り（処理後35日）

※慣行区薬剤：「シメトリン・テフリルトリオン・トリアファモン・ベンフレセート」粒剤
無処理枠：50cm×50cm・100cm×100cm各二か所から枠毎に抜き取った雑草および藻類

6. 適正な栽植密度の確保について

「ふさおとめ」や「ふさこがね」、「粒すけ」は茎数が不足すると減収に繋がるので、栽植密度は18株/m²（60株/坪）を基本とし、移植時期が遅い場合も極端な疎植は避けましょう。

「コシヒカリ」の場合は16~18株/m²（53~60株/坪）とし、植付が5月中旬~下旬の場合は窒素施用量を減らし、栽植密度は15~16.5株/m²（50~55株/坪）を目安にしましょう。

7. 田植え後の水管理について

晴天日には浅水で管理し、活着を促し早期に分げつを確保しましょう。また、低温や強風の場合は深水で管理し保温に努めましょう。ただし、常時の深水管理は分げつを抑制するため注意が必要です。

また、除草剤散布後3~4日間は水を動かさない、散布後7日目までは落水・かけ流しをしないことが除草剤を上手に効かせるポイントです。

II. 園芸野菜 病害虫防除情報

J A全農ちば 営農支援課

1. はじめに

昨年と比較し、3月の気温が高く推移しました。4月も平年より気温の高い日が続く予報となっています。引き続き害虫の急増、施設の温度管理に注意して、防除が遅れないよう圃場をよく確認しましょう。

2. キャベツ・ダイコン

(1) アブラムシ類

県病害虫発生予報によると、4月のアブラムシ発生量は多となります。主にダイコンアブラムシ・ニセダイコンアブラムシ・モモアカアブラムシが発生し、葉裏を中心に寄生します。被害が激しい場合は、外葉から枯死し、やがて株全体が萎凋枯死します。高温・乾燥の天候が続くと急増するため注意が必要です。また、収穫物にアブラムシ類が紛れていると異物混入にもなりますので、収穫中にも十分注意しましょう。



ニセダイコンアブラムシ

● キャベツ・ダイコン アブラムシ類 防除薬剤

IRAC コード	薬剤名	希釈倍数 ※	使用時期	使用回数
4A	アドマイヤーフロアブル	4000	キ: 収穫7日前まで ダ: 収穫14日前まで	2回以内
4C	トランスフォームフロアブル	2000	収穫前日まで	3回以内
28	ベネビア OD	2000	収穫前日まで	3回以内
29	ウララ DF	2000	収穫前日まで	2回以内

キ: キャベツの登録 ダ: ダイコンの登録

※登録のうち最大濃度を示す (例: 1000~2000 倍登録→1000)

3. サツマイモ

(1) 基腐病

サツマイモ基腐病は、産地に著しい被害をもたらす恐れがあります。糸状菌に感染することにより、株元の地際が暗褐色~黒色に腐敗し、生育不良や萎れ、黄変、赤変などが生じます。貯蔵中のサツマイモでは、なり首側から腐敗します。

現在は千葉県に発生はありませんが、発生を防ぐためには、病気の苗を畑に「持ち込まない」ことが特に重要です。「ウイルスフリー苗」や「メリクロン苗」、「消毒済み」の苗を選ぶ、苗の根元が黒くないか確認するなどして、健全な苗を使用しましょう。また、購入した苗の記録は保管しておきましょう。

植え付けた後も、地際部が黒色でないか、葉が黄や赤に変色等の症状がないかを定期的に見回しましょう。



千葉県 基腐病

検索

4. トマト

(1) コナジラミ類

千葉県内では主にオンシツコナジラミ・タバココナジラミが発生します。県病害虫発生予報によると、オンシツコナジラミの発生量は並、タバココナジラミの発生量は多となります。葉のすす汚れ被害に加え、トマト黄化病のウイルス（ToCV）を媒介します。また、タバココナジラミはトマト黄化葉巻病のウイルス（TYLCV）も媒介し、近年問題となっています。

(2) アザミウマ類

千葉県内では主にミカンキイロアザミウマ・ヒラズハナアザミウマが発生します。食害による葉の「シルバリング症状」、産卵痕による果実の「白ぶくれ症状」被害に加え、トマト黄化えそ病のウイルス（TSWV）を媒介します。コナジラミ類、アザミウマ類ともに薬剤抵抗性の発達が非常に速いため、薬剤に頼りすぎない総合的な防除を行いましょう。



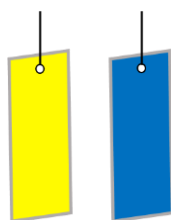
タバココナジラミ成虫



ミカンキイロアザミウマ成虫

○微小害虫防除のポイント

- ①ハウス、圃場内外の雑草は害虫の発生源・増殖源となるため、除去しましょう。
- ②ハウスには防虫ネットを展張し、ハウス内への害虫の侵入を防ぎましょう。目合いは0.4mm以下が理想的ですが、施設内環境に応じて選択しましょう。また、下写真の赤色防虫ネットは多くのアザミウマ類侵入抑制に有効です。
- ③ハウス内には粘着板（コナジラミ類—黄色、アザミウマ類—青色）を設置し、害虫の発生状況を把握しましょう。
- ④微小害虫は葉裏に多く寄生しているため、薬剤散布は葉裏にも薬剤がかかるように行いましょう。



● トマト コナジラミ類・アザミウマ類 防除薬剤 マルハナ影響日数に注意

IRAC コード	薬剤名	希釈倍数(倍)	対象害虫		使用時期	使用回数
			コ	ア		
4A	ベストガード水溶剤	1000~2000	○	○		3回以内
4C	トランスフォームフロアブル	1000~2000	○	—		2回以内
6	アフーム乳剤	2000	○	—		5回以内
9B	コルト顆粒水和剤	4000	○	—	収穫前日まで	3回以内
15	マッチ乳剤	2000	○	○		4回以内
28	ベネビア0D	2000	○	○		3回以内
30	グレーシア乳剤	2000	○	○		2回以内

コ：コナジラミ類 ア：アザミウマ類

Ⅲ.果樹(ナシ) 病害虫防除情報

J A全農ちば 営農支援課

1. はじめに

本年は、平年より1週間早い開花となり、千葉県庁が出しているナシ開花予測システムでは、千葉市の幸水で4月1日、豊水で3月30日に開花初めとなりました。暖かい気温が続き、生育の前進化が起こる場合、防除タイミングも前進化する可能性が考えられます。気象情報や生育状況に留意し、薬剤散布適期を逃さないよう注意しましょう。

2. 4月の梨防除について

(1) 黒星病芽基部病斑 (右写真) を確認した場合は摘除しましょう。

(2) 長雨や強雨の影響で追加防除が必要な場合や、開花期間が一週間以上にわたる可能性がある場合は、トレノックスフロアブルを追加で散布しましょう。ただし、散布当日の受粉作業は控えましょう。



黒星病芽基部病斑

(3) 4月下旬の薬剤散布は、チャノキイロアザミウマとニセナシサビダニの防除を兼ねています。アブラムシの同時防除を目的とする場合にはハチハチフロアブルを選択し散布しましょう。残効を長めに取り、ニセナシサビダニの防除を強く目的とする場合には、コテツフロアブルを選択しましょう。

(4) 防除暦 (4月部分抜粋)

時期 (目安)		防除方法	使用倍数	備考
りん片脱落終了後～開花直前	4月上旬	マネージDF	8,000倍	・トレノックスフロアブルは黒星病の耐性菌回避および心腐れ症の防除のため使用する。 ・オリオン水和剤はミツバチに影響するため、入地前に散布する場合は日数に気を付ける。
		トレノックスフロアブル	500倍	
オリオン水和剤 40	1,000倍			
開花期	4月中旬	芽基部発病芽の摘除 (交配時に努めて実施)		・交配期間が7日以上にわたり黒星病の発生が心配される場合に限り、トレノックスフロアブル (500倍) を散布する。ただし、受粉当日の散布は控える。
受粉終了後	4月中旬	スコア顆粒水和剤	4,000倍	・トレノックスフロアブルは黒星病の耐性菌回避および心腐れ症の防除のため使用する。
		トレノックスフロアブル	500倍	
		バリアード顆粒水和剤	4,000倍	
	4月下旬	ハチハチフロアブル	2,000倍	・疫病の発生が心配される場合はアリエッティ水和剤 (1,000倍) を散布する。 ・ニセナシサビダニやチャノキイロアザミウマの発生が多い場合はコテツフロアブル (2,000倍) を散布する。

※時期は平年の目安です。防除の時期は生育状況に合わせて農薬散布を行いましょう。

※マネージ DF やスコア顆粒水和剤は DMI 剤 (FRACコード: 3) に分類される同系統の薬剤です。開花時期の重要な黒星病防除剤ですが、感受性低下の恐れが非常に高い薬剤でもあります。必要以上の連用・多用は避け、散布時はトレノックスフロアブル等の保護殺菌剤とあわせて使用し、耐性菌発生リスクを低減させましょう。